

礎

茨城県民間保育協議会 青年部広報誌「礎」

2015年12月14日 発行

第37号

青年部アカデミー ～学ぶ・遊ぶ・結ぶ・青年ぶ～

講演「保育崩壊を語る」

～子どもを預けたその先で何が起きているのか～

青年部アカデミー活動報告

渉外委員会 委員長 清水 利春

PART1 研修会

講師プロフィール 小林美希氏
ひたちなか市出身。神戸大学法学部卒。
株式会社新聞社、毎日新聞社「エコノミスト」
編集部を経て、2007年よりフリー。若
者の雇用、結婚、出産・育児と就労継続問
題を中心に活動。「ルポ 正社員の若者たち」
「看護崩壊」「ルポ 保育崩壊」など著書多
数。全国各地の保育関係団体でも多くの講
演を行っている。



講師 小林美希氏



青年部アカデミー事業は組織の活性化という目的を根底におきながら会員の資質向上及び会員相互の絆を深める為に開催をしました。

渉外委員会が8月に集計した会員アンケート調査結果を元に今回の青年部アカデミーを開催しましたが、やはり研修という真面目な部分とボウリング大会や交流会等の親睦を図る目的のものを組み合わせた方が会員の参加率が高くなるのではないかと実感しました。更には会員の就労状況も様々であるので、今回の様にPART1「研修会」、PART2「ボウリング大会」、PART3「情報交換交流会」と時間帯を分け企画する必要性もあると考えます。

皆様方のご協力により非常に盛り上がった青年部アカデミーとなりました。

引き続き渉外委員会でも有意義で楽しい企画をしていきますので、引き続きのご指導を何卒よろしくお願い致します。

PART2 ボーリング大会



PART3 情報交換交流会



青年部アカデミーを振り返って

研修委員会 委員長 渡辺 謙

青年部員の資質向上、そして親睦を深めるために、研修委員会、渉外委員会合同で企画致しました「青年部アカデミー ～学ぶ・遊ぶ・結ぶ・青年ぶ～」を11月6日、ひたちなか市で開催致しました。お忙しい中、多数の青年部の先生方にお集まり頂きありがとうございました。

第1部ではジャーナリストの小林美希先生をお招きし、全国の保育園で起きている目を覆いたくなるような様々な事例を聴き、善良な保育者であると同時に善良な経営者でも在らねばならないと改めて痛感させられました。第2部レクレーションのボウリング大会では団体戦、個人戦と大いに盛り上がり、あちらこちらから歓声が聞こえ、皆さん一喜一憂していました。

第3部懇親会では、普段はあまり話す機会が無い先生方同士も大いに語り、親睦を深めていらっしゃいました。あつという間の短い時間ではありましたが、皆様のご理解、ご協力のおかげで無事開催できたこと感謝申し上げます。ありがとうございました。

「青年部アカデミーに参加して」



11月6日(金)に研修委員会並びに渉外委員会の合同企画研修会として開催された、青年部アカデミーに参加して参りました。第1部の研修会では、講師に小林美希氏をお招きし、「保育崩壊を語る」をテーマにお話をいただきました。待機児童解消のため、急速に保育園が増え、保育士が不足。そのため、保育の現場は保育の質の低下が懸念される状況に。現に私たちの保育園においても、募集してもなかなか保育士が見つからない。過酷な労働のわりに賃金は安いなど、課題は山積みです。「安心して下さい。大丈夫、保育の事は私たちに任せて下さい。」と自信を持って言えるベテラン保育士がずっと働き続けられる状況にしたいという思いはどこの保育園においても同じだと思います。制度の見直し、保育士の処遇改善に向けて、未来の日本を背負う子どもたちを育てる大事な職業であることを、もっと声をあげていきたいと強く思いました。第2部では、久しぶりに青年部のボーリング大会が開催され、交流を深めることができました。また、第3部の情報交換会で、ボーリングの成績発表も行われ青年部らしい盛り上がりで、絆も一層、深まりました。日頃、現場で忙しいからこそ、このような時間が大切であると思われる研修でした。企画に携われた先生方、本当にありがとうございました。(勝田あすなる保育園 大谷美和子)

新入部員紹介

平成27年度より、茨城県民間保育協議会青年部に入会されました、フレッシュな新入部員の方々を紹介していきます。



広報委員会 桜井 みな
(ほうとく保育園 水戸ブロック)



今年度より青年部に入会しました、桜井みなです。少しでも青年部の一員として、お役にたてるよう頑張っていきたいと思ひます。

クラス担任も持っておりますので、現場のアドバイスなどもお聞きできたらと思ひます。今後とも、どうぞ宜しくお願ひ致します。

研修委員会 植竹 文人
(のぎく保育園 水戸ブロック)



今年度より茨城県民間保育協議会青年部に入会させていただきました。水戸市にあるのぎく保育園の植竹文人です。まだ、活動に参加が出来ていませんが、青年部の一員として、諸先輩方のご指導の下、足手纏いにならないように、頑張っていきたいと思ひますので、宜しくお願ひ致します。

渉外委員会 東ヶ崎 拓樹
(飯沼保育園 県央ブロック)



本年度より青年部に加入させていただきました、茨城町にある認定こども園飯沼保育園の東ヶ崎拓樹と申します。青年部の活動を通して色々な方の言動や行動を別角度から見て参考や研究をしていきたいと思ひます。まだまだ勉強不足ではございますが、よろしくお願ひ致します。趣味はゴルフです。

渉外委員会 尾見 泰延
(たけのこ保育園 筑西ブロック)



今年度から青年部に入会させていただきました尾見泰延と申します。筑西市にありますたけのこ保育園で副園長をしております。保育の知識・経験が浅いので、青年部に参加して先輩方から貴重なお話を伺うことができる事がとても嬉しいです。青年部の活動を通して、様々な経験と学びをしていきたいと思っています。微力ですが、お役に立てるよう一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。

調査研究委員会 鈴木 佳祐
(すずのき保育園 県西ブロック)



今年度より青年部に加わさせていただきました。坂東市にあります、すずのき保育園の鈴木佳祐と申します。園では、3歳児の担任をしております毎日子ども達に元気とパワーをもらいながら、より良い保育を模索し勤務しております。プライベートでは、結婚4年目になり家事の他、2歳になる娘の育児をしています。これから青年部の一員として一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。

広報委員会 山崎 公蔵
(串挽保育園 いなほブロック)

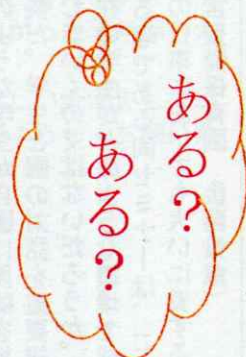


平成27年度より、茨城県民間保育協議会青年部でお世話になることになりました。銚田市にあります串挽保育園の山崎公蔵と申します。園長職に就いて2年目のまだまだ若輩者の私ではありますが、青年部の皆様との繋がりを大切に、皆様のプラスになれるよう、そして自分(自園)のプラスになれるよう努力して参りたいと存じます。又、不慣れなことも多々あるかと存じますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

四コマ漫画



保育園



<新企画>

ホトケノザ



ホトケノザ(仏の座、学名 *Lamium complexicaule*) とは、シソ科オドコリソウ属の一年草あるいは、年越草である。

身近な野草



敷地内に落葉樹の生えている園の方は、そろそろ落ち葉との格闘も一段落したのではないのでしょうか?最近では温暖化のせい、雑草の活動する期間も伸びた気がしませんか。また、樹木の生育も盛んになり、知らないうちに、大木になっていたりします。保育園の理想的な環境としては、緑いっぱいの自然のなかで伸びやかに子どもたちと過ごしたいものですが、それが現実の日々の園の環境管理となると、悩むこともいろいろな今日このごろです。さて、写真は園庭の花壇の下でがんばっているホトケノザです。名前もありがたいですし、かわいい花を咲かせるのですが、いつのまにか増えてしまうので、見つけるとついつい抜いてしまいます。ごめんなさい。ちなみに、秋の七草のホトケノザとは別ですので、食用にははいけません。それではよいお年を。(真壁保育園 長谷川 夏生)

第2回いばらき民間保育園就活応援セミナー

第2回いばらき民間保育園就活応援セミナーを終えて

就活応援セミナー 事務局長 松山 圭一郎

第2回目となる就活応援セミナーでしたが今年も無事にそして盛況に終了することができました。学生や潜在保育士の参加人数は合計180名、参加園数は60園ということで若干昨年よりも参加人数が減りましたが、パネルディスカッションから始まり、我武者羅応援団の本気の応援、そして各ブースでの保育園説明などで互いの相互関係の構築にお役に立てたのではないかと感じております。

また、準備にあたっては青年部内での役割も昨年度よりも明確になり、各青年部員の皆様のお力を更に発揮して頂いたことで特にマスコミへのアピールでは新たな実績を作ることができました。(NHKにて事前告知や夕方のニュースで取り上げて頂きました。)

ただ、課題も山積しており、日ごろの園運営やセミナー等を通じて、学生や潜在保育士はもちろん、就業中の保育士の抱える不安や課題をクリアしないことには少子化社会の中でさえ、いつまでも保育士不足(保育の質の低下)に悩まされることでしょう。

引き続きのご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



「就活応援セミナーに参加して」

現在は、情報こそが第一、という時代である。自園でどれほど素晴らしい保育をしているかと、それを、保護者に対しても、保育士を目指す学生に対して、その保育の素晴らしさを「伝える」努力をしていかなければならない時代となっている。つまり、一言で「保育の質」と言っても、実際に現場にいる人間だけが理解出来れば良いという時代ではないと言ふ事だ。

一方、保育士の人材不足は深刻化の一途をたどっており、あきらかに「人格の陶冶」がなされていない人材であっても採用しなければいけない。

実は、私は、「3年くらい働いて、結婚して仕事やめればいよいよ」という発言を聞いたことがある。驚くべきことに、これは、現在、保育士を目指している学生の言葉である。我々施設を運営している者にとっては噴飯ものの言葉であるが、この様な学生が少なからずいることも事実である。このことを我々は諦念を持って受け入れていられ、どうにかして自園の保育理念に合わせた保育士として成長してもらおうかに頭を悩ませている。

園のため、保育士のため、何より子どもたちのために「双方にとつての不幸な就職」は避ける必要がある。そのために、採用後においては、自園の職場の環境、保育の理念を新任保育士にきちんと伝えなくてはならないし、また、採用前においても、自園をどのような学生が指向しているのかをきちんと把握していなければならないだろう。

全てを全て今の学生に合わせれば良いと言ふことではないが、若者の仕事に対するモチベーションの変化に園も合わせていかなければ、当面続くであろう保育士の人材不足の確に対応する事は難しいのではないだろうか。

以上のような問題意識のなかで、今回伺いさせて頂いた「いばらき民間保育園就活応援セミナー」では学生と各園が直接対話する事により、どの養成校の、または、どの地域の学生が自園に興味を持っているのか、そして、どのような思いを持って保育士を目指しているか、と言ふ傾向を知る事ができた。また、自園の現場を知らない学生に対し、園の運営方針や保育理念等をどのように伝えていくのか、更には他園においてどのように施設の情報を提供しているのかと言ふ事を学び、新たに考えていくという経験もできた。

どのような学生が自園に興味を持っているのか?と言ふ事を知るのには非常に重要だ。学生と園の対話を重要視するこのセミナーの持つ重要性は、今後増していくのではないだろうか。

現在の学生がどのような環境で成長し、保育士として形成されていくのかを知る場である同セミナーは、これからの職場の就業体系を形作っていく我々の仕事においても大いに資することになるだろう。

(大宮聖愛保育園 後藤貴哉)

茨城県民間保育協議会青年部 広報委員会

委員長	長谷川 夏生 (真壁保育園)	編集委員	浅倉 涼二 (旭保育園)	大谷 美和子 (勝田あすなる保育園)
副委員長	中川 祐一 (さしま保育園)		後藤 貴哉 (大宮聖愛保育園)	桜井 みな (ほうとく保育園)
副委員長	滝田 昌弘 (つくば保育園)		戸田 見良 (玉里保育園)	山崎 公蔵 (串挽保育園)
			藤枝 明人 (とりのす保育園)	